

# Phase1>敷地・予算・法規制の確認

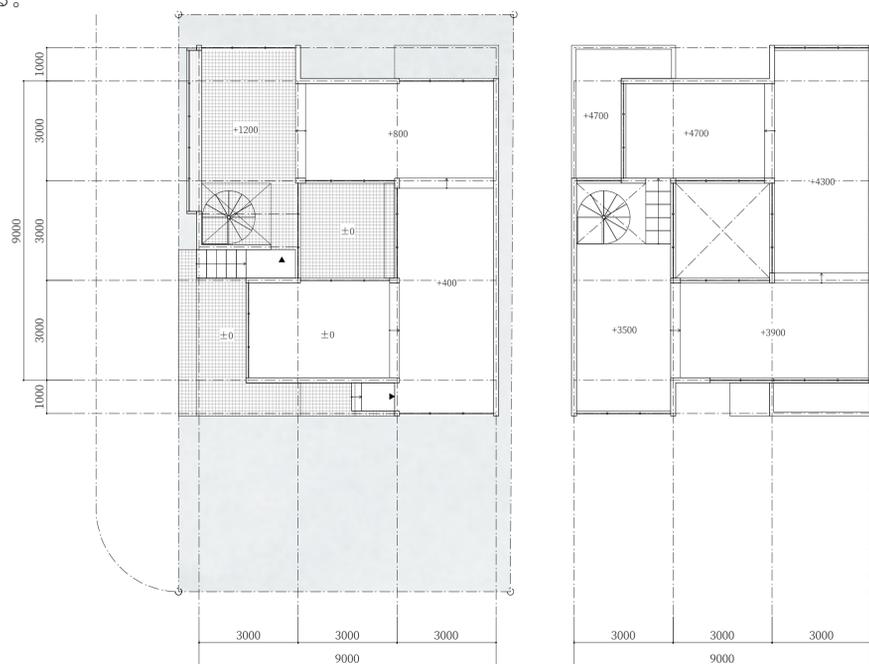
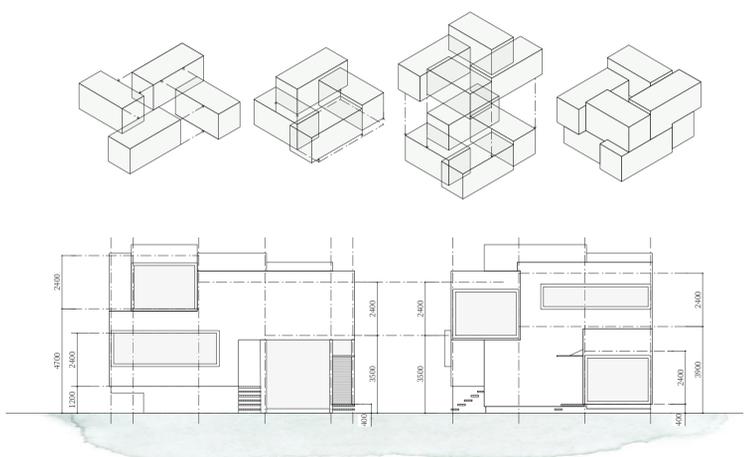
躯体を決める条件の確認。将来の不確定要素にも対応できる、自由な空間を計画する。

## <Phase2>躯体をつくる

3M×6Mのユニットを交互に組み合わせ空間をつくる。ユニットごとに400mmずつ床レベル差をつけ変化を与える。

長期に渡り時代に即して維持できるよう、躯体の性能に配慮する。

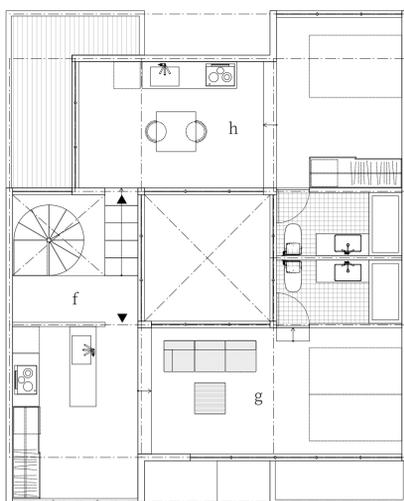
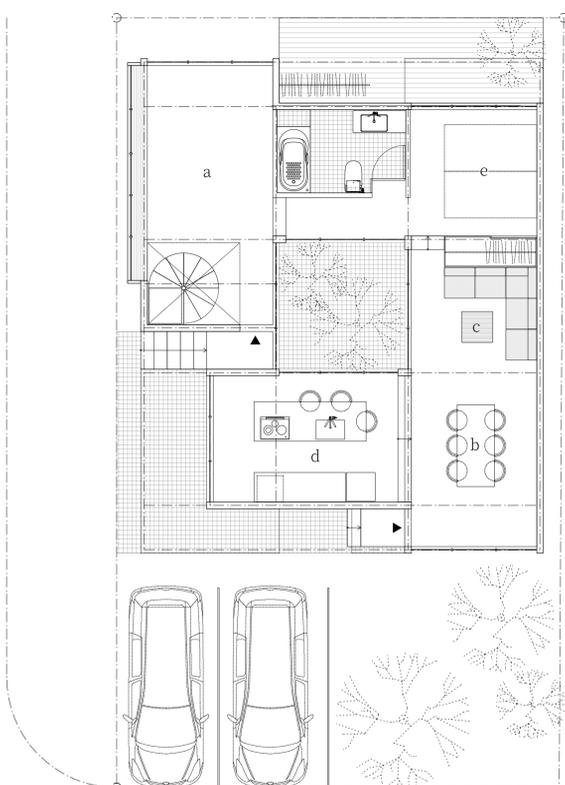
十分な断熱と、地震時にも被害を受けづらい耐震性を確保し、災害に強い省エネルギーな躯体を計画する。



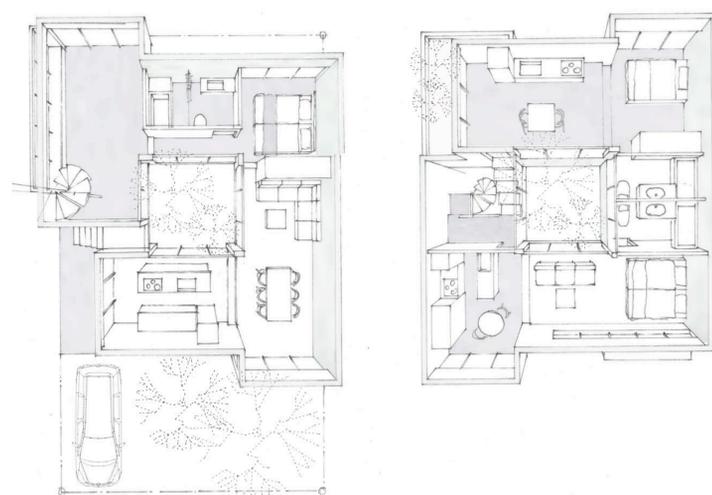
## <Phase3>用途に合わせたインテリアをつくる

使い手の好みや希望に合わせた設えを計画する。間仕切壁や家具によりゾーニング。設備配管は床下空間から容易に取出可能になっている。

## <Phase4> 第一用途として使う



- a: ホール
- b: ダイニング
- c: リビング
- d: キッチン
- e: 寝室
- f: ホール
- g: 賃貸住宅A
- h: 賃貸住宅B



<一階をオーナー住居、二階を賃貸物件とする例>  
 一階はオーナー住居としてインテリアを計画。  
 ホール部分はオーナー世帯の多目的ルームとしても、近隣住民の集いの場として開放してもよい。  
 二階賃貸部分は単身世帯又は二人暮らしとし、二世帯住宅や賃貸、ゲストハウスとして活用する。  
 住みながら収益をあげる例。

## <Phase5>使い方に変更が必要になる

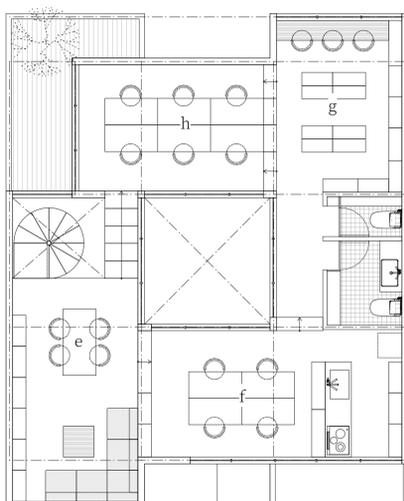
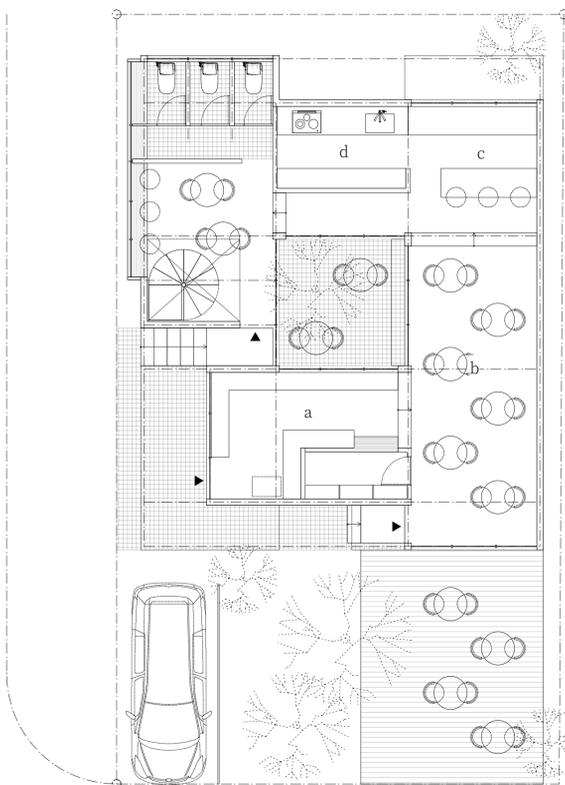
## <Phase6>売却・貸出・運営方法の検討

所有者として不要になった場合でも、売却や貸出により建物を有効活用する。

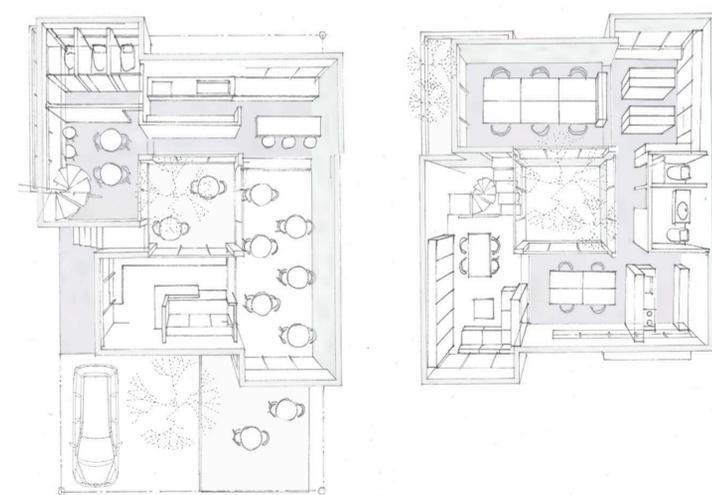
## <Phase7>インテリア再計画

間仕切壁や家具の入替、設備の更新により全く新しい用途に変更できる。躯体は変更しないため、従来のリノベーションに比べ容易である。

## <Phase8> 第二用途として使う



- a: ベーカリー
- b: カフェ&レストラン
- c: バー
- d: 厨房
- e: 会議スペース
- f: ワークスペースA
- g: 資料室
- h: ワークスペースB



<一階を店舗とする例>  
 住宅とカフェやパン屋、花屋などの小店舗を併せ持つ形。住宅街のコミュニティの場になる。  
 <二階をワークスペースとする例>  
 多様な働き方ができる場として、事務所やシェアオフィス、書庫など様々な使い方が想定される。  
 人が集まる場として活用